

新

INORI

時を超え、つながる「痕跡の美」

丹波今西公彦展

2023.9.23(sat) - 12.24(sun)

開館日 | 水・木・土・日曜日 11:00~16:00 (入館は15:30まで) 休館日 | 月・火・金曜日
会 場 | 緑ヶ丘美術館・本館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘2731-10 ●入場無料
URL | <http://mam-museum.com> <お問い合わせはFAXで: FAX 0743-85-7880>

MAM

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

丹波焼の新たな景色を求めて、 源流に挑む。

丹波焼発祥の地、丹波立杭に生まれた今西公彦は、
古丹波に魅せられ、その根源的な美の探究に挑む陶芸家だ。
山を歩き、土を掬い、
800年前の窯跡で問いかけ、妄想する。
「なぜここで、このように焼かれたのか」
平安時代末期、今も謎の多い丹波焼の起源に残された刻画文陶器、
それは愛する者を弔うために造られたのではないか。
天に祈り、無心に焼かれた陶器だけが持つ美しさを求めて、
窯というタイムトンネルをくぐり、古の陶工たちに自らを重ねる。
経験と技が無意識のうちに、この地の土と火に導かれて、
“丹波でしか生まれない”必然の美が現れる。
それは800年続く、丹波の自然と人の生の痕跡、
そして現代の陶芸家である今西公彦の感性の痕跡だ。
源流の再生から生まれる丹波焼の新たな景色をご高覧ください。



丹波菊花文四耳大壺



丹波秋草文大壺



丹波菊花文大壺



丹波七宝繫文甕

今西公彦（いまにしまさひこ）

● 略歴（プロフィール）

- 1971 兵庫県丹波篠山市に生まれる
- 1993 京都府立陶工高等専門学校卒業
- 1995 京都市立工業試験場修了
- 京都 岡本彰氏宅にて内弟子となる
- 2000 丹波に帰り作陶をはじめ
- 京都市立企業技術者研修修了
- 2001 三田市藍本に築窯
- 2004 兵庫県播磨科学公園都市「友愛のオプトベンチ」制作
- 2005 初個展（市立ギャラリーいけだ・大阪）
- 2006 田部美術館 茶の湯造形展 入選（以後5回）
- 織部の心作陶展 入選
- 大阪工芸展 入選
- 武者小路千家 千宗守匠 御書付（以後5回）
- 2008 意在処展（そごう神戸店・兵庫）（以後2回）
- 2009 個展（穴窯陶廊 炎色野・東京）（以後13回）
- 2010 丹波篠山市立杭に移る
- 現代茶陶展 入選（以後1回）
- 2012 酒器・茶器展（穴窯陶廊 炎色野・東京）
- くい呑100撰（巷談舎・大阪）（以後11回）
- 個展（山陽百貨店・兵庫）（以後4回）
- 2013 丹波 今西公彦 作陶展（丹波古陶館・兵庫）
- 2014 現代作家茶碗特集（日本橋三越本店・東京）（以後1回）
- 2015 白い丹波展（丹波古陶館・兵庫）
- 2016 個展（日本橋三越本店・東京）（以後2回）
- Tanba讃歌（巷談舎・大阪）
- TANBA ー10人の作家による茶陶展（佛傳ギャラリー・東京）（以後3回）
- 2017 Tanba讃歌Ⅱ（巷談舎・大阪）
- 2018 城南宮（京都伏見）に茶碗を奉納
- ど・丹波展（ギャラリーラボ・愛媛）
- 丹波焼の現在～新たな創造へ～（高島屋京都店・京都）
- 2019 伊賀、信楽、丹波の現在展（wad・大阪）
- 2020 書寫山園教寺（姫路）に白甕を奉納
- 緑ヶ丘美術館コレクション「特別名作展」（緑ヶ丘美術館・奈良生駒）
- 2021 今西公彦×田村星都展（アートサロン山木・大阪）
- 2022 緑ヶ丘美術館コレクション 現在/茶陶 水指・茶碗・茶筒15（緑ヶ丘美術館・奈良生駒）
- 生命根源 須田烈太×今西公彦（神戸阪急・兵庫）
- 池田省吾・伊勢崎晃一郎・今西公彦展（アトリエヒロ・大阪）
- 2023 現在形の陶芸 萩大賞展Ⅵ 入選（山口県立萩美術館 浦上記念館・山口）



交通アクセス

- 公共交通機関：〈地下鉄中央線・近鉄けいはんな線〉または〈近鉄生駒線〉〈近鉄奈良線〉で『生駒駅』下車。
生駒駅「南口1番のりば」より奈良交通バス『中菜畑二丁目行き』乗車→『新旭ヶ丘バス停』下車、徒歩すぐ。
- ※ 当美術館には駐車場はございません。

【会場住所】〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10

緑ヶ丘美術館では新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた上で開催いたしております。今後の感染状況によりましては急遽、臨時休館や予定を変更する場合がありますので、ご来館の際には事前に当館ホームページをご確認いただきますようお願いいたします。

MAM

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館